

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 大牟田市立玉川小学校 (※正式名称を記載)

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注1}

☐ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注2} ☐ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他（例：小中高一貫 _____）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒836-0893

福岡県大牟田市大字櫛野2710-1

E-mail tamagawa-es@st.city.omuta.fukuoka

Website http://www.e-net21.city.omuta.fukuoka.jp/tamagawa-es/

幼児児童生徒数 男子 52名 女子 40名 合計 92名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「自ら学び、豊かな心で明るく健康的な子どもの育成」を学校教育目標に掲げ、ESDの実践を通して、「将来にわたって、持続可能な社会を構築するために一人一人が環境と深いつながりがあることを知り、身近な環境を大切にする心情を育てる。」という目標を設定した。また、身近な環境と積極的に関わりながら、地域の特色を生かし、友だち、家族、地域の方々など、「人とのかわり」を大切にして豊かな心を育むとともに、食生活に関心を持ち、自ら食に関する考えを深めながら心身ともに健康な子どもの育成に努めていきたいと考えた。

具体的には、低学年では「自然に直接触れる体験を重視し、豊かな感性を育てる。」、中学年では「身近な地域でとれる農作物に関心を持ち、生産される農作物を使って調理し、食の大切さを知らせる。」、高学年では「米づくり、独居老人へのもち配り等を通して、福祉の意義を理解させるとともに、地域と深い関わりを持ち、地域を愛する心情を育てる。」としている。①低学年の活動、②中学年の活動、③高学年の活動、を具体化し、実践へと結びつけていった。また、同じ「食」の領域で、北海道の留寿都小学校との交流活動も深めている。

① 低学年の活動

1年：「なんでもたべよう」

2年：「やさいづくりをしよう」

※1・2年生でいも苗植え・いもほりを実施した。

① 中学年の活動

3年：「地域の特産物の収穫体験をしよう」

※みかんちぎりをし、収穫したみかんでジャム作りに挑戦した。

4年：「地域の特産物を使ってデザート作りをしよう」

※梅ちぎりをし、収穫した梅で梅ジュース作りに挑戦した。

② 高学年の活動

5年：「米作りに挑戦しよう」

※田植え、稲刈り、もちつきを通して、独居老人へのもち配りを実施した。

6年：「野草学習」

※食される野草を収穫し、天ぷら作りに挑戦した。

① の写真

- ・ いも苗植え
- ・ いもほり



② の写真

- ・ みかんちぎり
- ・ 梅ちぎり



③ の写真

- ・ 田植え
- ・ 稲刈り
- ・ もちつき
- ・ 野草学習



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(学校行事・地域行事・市行事 等)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

○ユネスコスクール・ESD 等
○市教委からのユネスコスクールやESDに関するリーフレット 等

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校におけるユネスコスクールの目標を、「持続可能な社会を構築するために、学校の教育活動を通して、友だち、家族、地域の方々など、人のかかわりを大切にして豊かな心を育むと共に、食生活に関心を持ち、自ら食に関する考えを深めながら心身ともに健康な子どもを育成する。」と設定した。

そのために、全学年、ESDカレンダーを作成し、年間を通して見直しをもった取組としている。このESDカレンダーを教育指導計画に盛り込み、随時、成果と課題を出し合い、見直し改善に努めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

ESDカレンダーをもとにした、単元計画（ストーリーマップ）を作成していくことで、授業づくりに努めている。また、体験活動を重視し、地域の人材をGTとして、大いに活用させていただいている。そのために、地域人材マップを作成し、ファイル化することで、地域のひと、もの、ことの共有化に努めている。

交流のある北海道の留寿都小学校コーナーを設置し、子どもたちの興味関心を高めている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部／外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

市教育委員会へのESDの取組の報告や自分たちが学習した内容を地域に発信する場を設定している。報告書については、全職員で成果と課題を出し合い、次年度への具体的方策等についても検討し、共有化に努めている。地域への発信については、地域の声を子どもたちに還元し、次への意欲付けの手だてとしている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（２００字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

本校のESDの取組を、地域行事の「どんと祭」にて発表する機会をいただいている。そこでは、伝統芸能である「米はかり踊り」を５年生が披露し、特に、本年度は、市制１００周年記念劇において、発表する期待をいただいた。子どもたちには自信につながり、今後の活動に大きな期待が持てる。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）（２００字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

毎月１回の地域ボランティアによる読み聞かせや６年生を対象としたミシン教室の開催。また、３・４年生には習字教室等を実施している。本年度３月には、３年生にそろばん教室の計画もある。地域の地区公民館やまちの芸術家等の団体の皆さまにご協力をいただき、子どもたちも興味を持って取り組んでいる。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（２００字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

ＥＳＤの同じ「食育」でのつながりによる、北海道留寿都村立留寿都小学校との交流を実施している。平成２９年度で４年目となる。それぞれの学年で、収穫した農作物や手紙、農作物をもとにした加工品のレシピ等を交流している。また、職員交流に関しても、２年に一度の割合で、担当者間の交流を実施している。

課題としては、子ども同士の直接的な交流ができていない点である。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（２００字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

職員においては、市内外のＥＳＤ研修会への職員の積極的な参加により、ＥＳＤでの関心が高まり、意欲的で計画的な取組がみられるようになってきた。

子どもたちにおいては、地域のよさを再確認したり、交流を通して他の地域のよさを知ったりすることで、広い視野での考え方が身につき始めている。

保護者や地域においては、北海道との交流を通して、協力体制が強固なものになってきた。

（３）平成 30 年度の活動計画（２００～４００字程度）

１年生：ひとつぶのたねから

※留寿都小との交流・・・イモの送付・お手紙

２年生：おいしいやさいをそだてよう

※留寿都小との交流・・・イモの交流・だんごづくり

３年生：玉川探検隊（春・夏・秋・冬）

※留寿都小学校との交流・・・玉川の農作物・みかん・お手紙

４年生：玉川の果物で食べ物や飲み物を作ろう

※留寿都小学校との交流・・・梅ジュースのレシピ

５年生：米作りに挑戦

※留寿都小学校との交流・・・もちつきまでの様子（写真）

６年生：玉川の野草を調理しよう

※留寿都小学校との交流・・・野草の天ぷらのレシピ・写真

市及び地域行事等への積極的な参加体制を確立していく。

※年間計画への位置づけ